

甲冑展示マニュアル



白石市まちづくり推進課

!注意事項

甲冑は、非常に高価なものです。
丁寧に取り扱いますようお願いいたします。

- 万が一、破損があった場合には、使用者の責任と負担により、修理・修復を行い、原状回復をお願いいたします。
- 修理・修復が困難な状況まで破損している場合、使用者に対し、相当と認める額を請求する場合があります。
- 白石市は甲冑等の使用に係る損失補償等の一切の責任を負いませんので、ご了承ください。
- また、甲冑等の使用によって生じた事故等に関しては、使用者の責任において処理するようお願いいたします。

★持ち運ぶ際、甲冑の上には何も乗せないでください。

★甲冑を重ねて乗せる、逆さまに置くことも厳禁です。

★**使用後は、使用状況の報告**をお願いいたします。



←←

報告フォームはこちらから。
使用状況が分かる**写真も添付**
してください。

次に使う方が気持ちよく使用できるように、
甲冑等を長く綺麗に使用できるように、
皆様のご協力をお願いいたします。

まずはじめに、備品の確認を！



前立て*には
様々な形が
あります。



①	兜(かぶと)	頭を守るもの
②	*前立て(まえだて)	兜に付けるもの
③	面頬(めんぼお)	顔面を守るもの
④	胴(どう)※袖(そで)付き	胴体を守るもの
⑤	籠手(こて)	手や腕を守るもの
⑥	佩楯(はいだて)	太ももと膝を守るもの
⑦	臍当(すねあて)	膝からくるぶしを守るもの
⑧	腹帯(はらおび)	腰回りに着けるもの
⑨	鎧櫃(よろいびつ)	収納袋に入れた甲冑等をしまうもの
⑩	鎧立(よろいたて)	甲冑を展示する際に使用するもの
⑪	収納袋(しゅうのうぶくろ)	甲冑等をしまうもの

展示の仕方

※作業人数は最低2人です。途中、新聞紙を使用しますのでご準備ください。

1 鎧櫃から、甲冑、鎧立を取り出します。収納袋は鎧櫃の中にしまってください。



鎧櫃は家紋や文字が記されている方が正面です。

2 佩楯の裏の紐をゆるくリボン結びします。



3 佩楯を鎧櫃の正面にかけます。

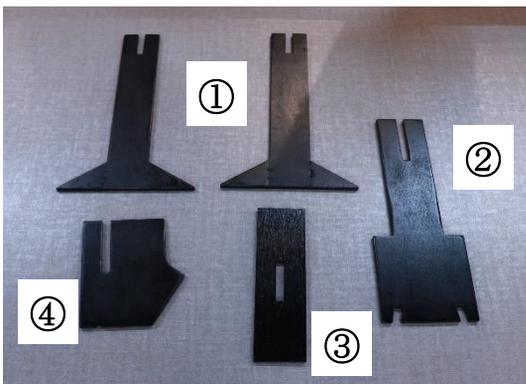


後ろでリボン結びします。



4 鎧立てを①～④の順に組立てます。

①	足	②	胴体
③	肩部	④	頭部



鎧立を鎧櫃の上に置きます。佩楯がずれ落ちないように、佩楯の上に重ねて置いてください。頭部が少し出ている方が正面です。

5 両籠手に、腕の太さ程度になるように新聞紙を入れます。



6 左籠手を肩部にかけます。



7 胴体右下のくぼみに紐を引っ掛けます。



8 胴体左下できつめにリボン結びします。

9 右籠手も同様に行います。



10 胴を左側から入れ、肩部に置きます。胴は必ず2人で持ってください。胴の襟を外してから入れても構いません。

11 内側に入らないよう、襟を立てます。



- 12 高紐を鞆（こはぜ）に引っ掛け、**胴の正面（前胴）と背面（後胴）**を結合させます。



- 13 面頬を頭部に引っ掛けます。紐で高さを調整します。



- 14 胴右脇の前胴と後胴を、**前胴が外側になる**ように重ねます。



- 15 前胴の紐を、後胴の輪に通し、**リボン結び**します。



- 16 紐を垂らしたまま兜を置きます。やや浅めに置くと見栄えが良いです。



垂れた紐を顎の下で交差させます。

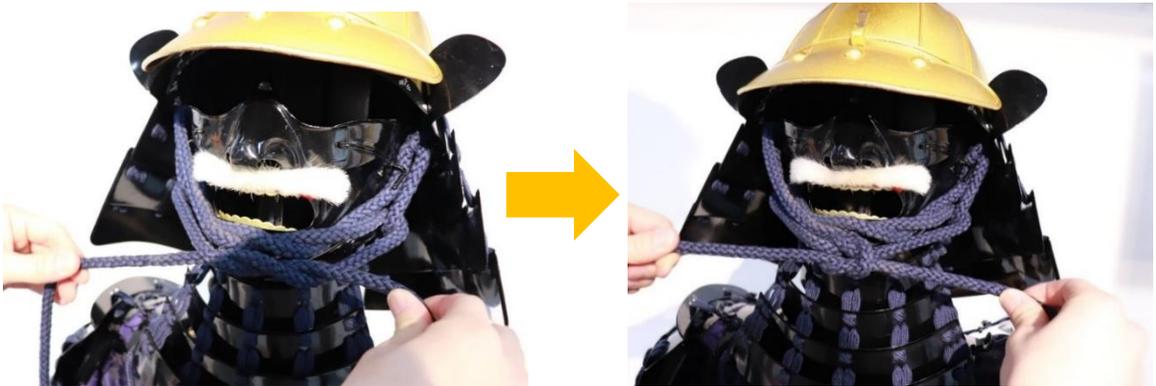


※16～18は、実際に着付けを行う際の結び方になります。面頬と兜のバランスを整えるのが難しい場合は、リボン結びでも問題ありません。

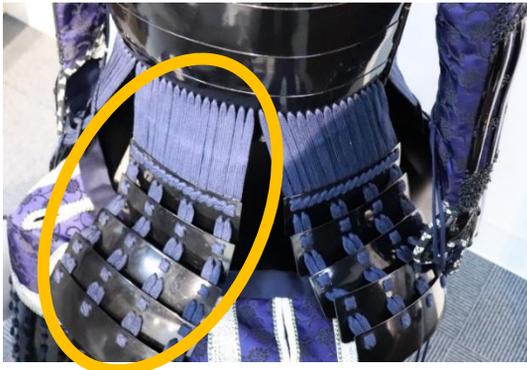
17 交差させた紐を後ろの輪に**内側**から通します。



18 通した紐を顎の前で、**左を上にして交差→右を上にして交差**して結びます。余った紐は後ろに垂らします。



19 草摺（くさずり）を綺麗に垂らします。



20 腹帯を後ろから巻き付け、正面で交差させます。



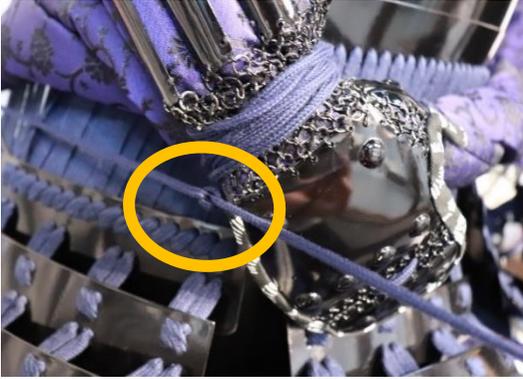
21 余った紐を**内側**から入れます。下がらないように**きつく結んで**ください。



22 右籠手の親指を腹帯にひっかけます。手首に垂れている紐で**腹帯と一緒に巻き付け**ます。



23 二手に分かれた部分で、二方向から巻き付けます。



24 なるべく正面から見えない部分でリボン結びします。左籠手も同様に行います。



25 脛当に、足の太さ程度になるように新聞紙を入れて巻きます。



表側で紐をリボン結びします。



26 革の部分が内側同士になるように、鎧櫃の正面に置きます。



27 前立てを兜に差します。



以上で完成です。お疲れ様でした。